

## 「第3回ミニ懇話会」報告

広大マスターズ広島 広報担当:渡邊 敏正

### 第3回懇話会が会員の大杉 節先生を話題提供者として

「『NASA ガンマ線宇宙望遠鏡』開発に欠く事のできない重要な貢献をした経緯」  
なるタイトルで開催され、参加者は8名であった。講演拝聴後の感想を述べて報告書とする。

ご講演の核心的な話題はNASA(アメリカ航空宇宙局)が打ち上げた「ガンマ線宇宙望遠鏡」(打ち上げ後、フェルミ衛星望遠鏡と名付けられた)の主要構成部品である「半導体飛跡検出器」の開発および超高信頼度化設計に大杉先生がどのような貢献をされたか、についてであった。ポイントは、得られた成果がNASAのガンマ線宇宙望遠鏡の開発・打ち上げプロジェクトにおいて欠くことのできない極めて重要な貢献であったということに加えて、大杉先生が理論と応用の両方にまたがって研究・開発の中心的役割を担った大学人という意味で稀有な存在であるということが明らかになったことである。先生は広島大学退職後も特任教授として宇宙科学センター長を続けられたこと、同センター附属東広島天文台において「ガンマ線宇宙望遠鏡」で得られた観測データに基づいて突発天体现象に関する研究を推進されたこと、その結果として打ち上げから数年間は先生が鼓舞・支援された研究グループから活発な成果発表が続いたことなどにも言及された。

一方、素粒子研究者がなぜこのような大きな貢献に行きついたか、およびそこにたどり着くまでの研究者としての考え方や行動についても、当時の研究分野の状況、研究環境、時代背景などをベースにして詳細に述べられた。さらにさかのぼって、広島大学理学部で素粒子研究を始められた理由、研究者の道を進む過程における自己の考えや行動、研究方向を探る過程でどのように物事をとらえて対応されたか、などについても語ってくださり、研究者には大変興味深い内容であった。同時に今回伺ったお話は学部学生のみならず大学院生にとって、さらには言えば高校2~3年生にとっても、今後の進路を考えるうえで大いに参考になる内容であり、これらの人達には是非聞かせたい講演である、という思いを持った。素粒子研究者である先生が心血を注がれた貴重な成果と研究・開発に対する心意気を、分かりやすく2時間あまりの講演にまとめて話して下さったことに深く感謝している。これは出席者全員同じ思いであると考えている。

なお、当日の配布資料を別途掲載するので、講演内容の詳細についてはそちらを参照されたい。